

令和7年度 沖縄IT津梁パーク施設及び沖縄情報通信センター
指定管理者制度運用委員会におけるモニタリングの検証結果について
(令和6年度実績分)

1. 施設名：沖縄IT津梁パーク施設
2. 開催日時：令和7年7月22日（火）10:00-
3. 開催場所：沖縄IT津梁パーク 中核機能支援施設第1会議室
4. 出席者：委員5人中 4人出席
(会長) 国立大学法人琉球大学工学部 准教授 國田樹
(委員) 沖縄県中小企業家同友会 理事 仲間高乃
(委員) 一般社団法人沖縄県中小企業診断士協会 理事 新田慶子
(委員) 株式会社C&C沖縄 取締役 吉田秀
(事務局) 沖縄県商工労働部ITイノベーション推進課 課長 東盛舞子
基盤整備班長 仲西康二、主査 喜友名、主任技師 伊波、主任 祖根
(指定管理者) 株式会社沖縄ダイケン 施設長 大城正、藤山
5. 検証事項：沖縄IT津梁パーク施設（令和6年度実績）に係るモニタリングの実施結果
6. 検証内容
 - (1) モニタリングは適正に行われているか
 - (2) 指定管理者に対する県の指導・助言は適切に行われているか
 - (3) 利用者アンケートや苦情に対する指定管理者や県の対応は適切に行われているか
7. 検証方法
 - (1) 事務局によるモニタリングの実施結果の報告
 - (2) 委員からの質疑・意見
8. 検証結果
沖縄IT津梁パーク施設の管理運営は、概ね適切に行われている。
9. 主な質疑・意見

(会長)	アンケートで、コンビニ前喫煙所からの煙に関する意見があるが、屋外の軒下はコンビニの専用区画になっているのか。専用区画でないなら指定管理者で撤去等行うことはできるか。
(事務局)	コンビニ前の軒下は専用区画ではないが、灰皿の撤去を含む対応については利便性等の観点から慎重に検討する必要があると考える。
(指定管理者)	窓からたばこのにおいが入ってくるとの意見だが、この棟は換気・空調等の設備に関して、窓を閉めた運用を前提としており、窓を閉めて業務を行うよう声掛けしている。また、灰皿の撤去は入居しているコンビニの売り上げに影響が出る恐れがありコンビニの撤去につながらないかという懸念もあり、現状を踏まえると、コンビニ前の喫煙所の移動撤去は難しいと考えている。

- (会長) 受動喫煙防止は法令で定められていると思うが、屋内喫煙所とかはないのか。構内禁煙も難しいと思う。
- (事務局) 県の公共施設は基本的に屋内禁煙なので、屋内喫煙所の整備は難しい。
- (委員) 赤字の原因を修繕費の増加によるものとしているが、棟ごとの修繕計画等はあるのか。
- (事務局) 比較的大規模な修繕については、棟ごとに修繕計画を定めているが、1件50万円未満の修繕については、経年劣化に伴う突発的な修繕が主となっており、修繕費が増加する原因となっている。
- (委員) 突発な修繕は、すぐに対応できているのか。
- (指定管理者) 予算の関係もあるため、即時修繕が必要なものに対してはすぐに対応しているが、そうでないものについては、予算の消化状況等を見ながら少し時間をおいて対応している。
- (委員) その辺りをもう少し計画的に対応できるようにすると、予算通りに修繕を行うことができるし、壊れたままという状況もなくなる。突発的な修繕を減らしていけるよう対策としてやってほしい。
- (事務局) 県としても、個別の修繕計画の他に、総務部の事業を利用して大規模修繕等を行っており、それを使って令和5年度は中核機能支援施設の空調の一斉更新を行った。色々な予算を使って予防保全に努めているので、今後それが軌道に乗れば、突発的な故障も減ってくると思う。
- (委員) 突発的な故障の件数等の分析はできているのか。去年と今年の状況の細かい比較・分析を、今後の予算計画に組み込んでいけるのではないか。
- (会長) 金額と件数の比較は難しい。件数は増えていなくても、金額が上がっている場合もある。今年度だと修繕件数が26件となっているが、去年と比較してどうか。
- (事務局) 去年と件数は同じくらい。
- (会長) 去年と件数は変わらないのに金額が上がっているということか。人件費等社会的要因により金額が上がっているのか、壊れた機械が高額なものなのか。

- (事務局) 故障の内容によって異なるため、一概には言えない。壊れる箇所はなかなか予測ができないので、県としては施設の予防保全に努める。
また、最初で5年間の指定管理料が決められてしまうということもあるので、次の指定管理選考の際には財政課とも事情を説明して予算を増額してもらえよう調整を行っている。
- (委員) 修繕が必要となった箇所について、空調とかいろいろな種類があると思うが、故障の事由は分類ごとの分析はしているか。故障の分析によって、どの部分の故障が増えているかを把握し、修繕計画の策定の際に反映できるのではないか。
- (事務局) 現在そのような分析は行っていないが今後検討していきたい。
- (会長) 経年劣化は致し方ないが、それをどう分析して、次の募集に盛り込むかが大事。指定管理者が赤字になると応募する人がいなくなるので、そういったところを考慮する必要がある。
- (会長) 修繕の在り方等改善の余地はあるが、令和6年度の指定管理者の運用状況という点では今年度の指標に基づき適切に評価がなされていたものとする。

10. 会議の公開状況：公開